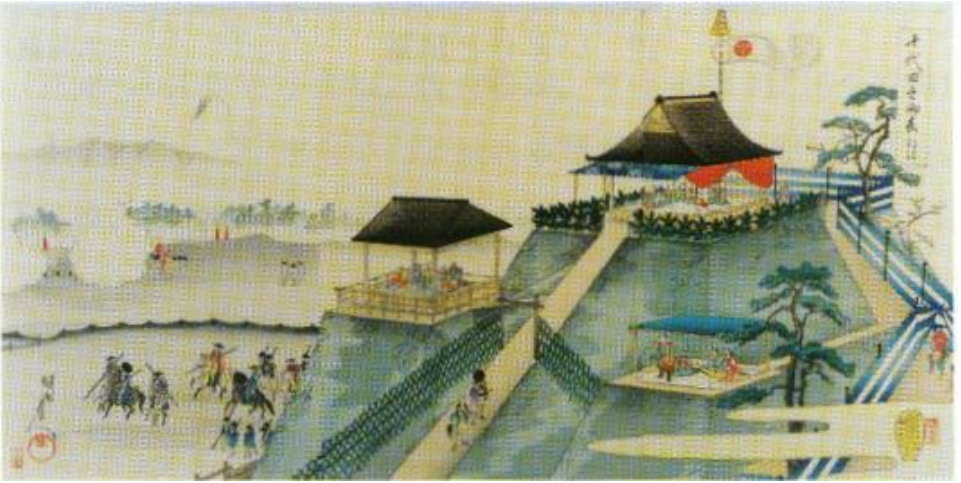


吉宗が鹿狩りに来た



こがねまき 小金牧跡いまも残る野馬除土手

野馬除土手、いまでもダイエー



鳥井戸大塚と呼ばれ、塚の多いところだった。昭和15年、松戸飛行場ができたとき破壊された。

五香駅から松飛台行きのバスに乗ると、すぐ御立場（おたつば）という停留所がある。お立ち場とはなにか。その近くにある五香公園には、隅に御立場の記念碑（写真左）が建っている。享保十年三月（一七二五）、ここに高さ十五メートルの塚を築き、二間四方の御殿を作り、八代將軍吉宗を迎え、お鹿狩り（おししがり）が行われたという。吉宗は、午前一時に江戸城を出発、松戸で朝食をとり、八時に現地に到着。すでに騎馬五百、歩行二千の武士が勢ぞろいして待っていた。御立場とは、狩猟好きの吉宗が鹿狩りをした観覧所ということになる。左右に網を張り、ここに追い込まれた獲物を槍で突き、弓で仕留めた。上図は、明治期になって描かれた御立場の絵図で、松戸市立博物館蔵である。当時の柏、松戸、船橋、千葉市に及ぶ原野は、小金牧（こがねまき）という幕府直轄の軍馬生産の牧場で、野馬が駆け、鹿や猪が生息していた。この内外に村が点在していた。農民にはいろいろな制約や徴発があった。

に出る右側、また五香駐輪場の横に残っている。

小金牧は、明治二年になって困窮士族のための入植・開墾が始まる。まず鎌ヶ谷の初富、船橋の二和三咲、柏豊四季、松戸の五香・六実、最後に柏の十余二、成田の十余三。しかし、大草原の開墾は困難を極める。開墾会社は衣食住を保証、一人五反歩を与えたが、見切りをつける者があとを絶たなかったという。